Free Paper Oral(multiple job category) | 心理・プレパレーション

Free Paper Oral (multiple job category) 6 (III-TRO6)

Chair: Masako Aoki (Musashino University, Faculty of Nursing)
Sun. Jul 9, 2017 9:20 AM - 10:20 AM ROOM 2 (Exhibition and Event Hall Room 2)

9:20 AM - 10:20 AM

[III-TRO6-01]心臓移植に伴う転院における心理社会的視点での情報共有 °作田和代(静岡県立こども病院 成育支援室)

Keywords:心理社会的支援,心臟移植,転院

【背景】心臓移植を受ける決断をした子どもと家族は、治療の内容により転院したり、移植を行うために心臓移 植実施施設または海外の施設に転院することになる。転院は環境の変化が大きく、子どもの不安・葛藤・混乱な どの心理的負担を強くする恐れがある。それらの心理的負担を予防・軽減するためには、施設間での医療や看護 の情報共有はもちろん、心理社会的視点での情報共有も必要となる。【目的・方法】心臓移植を受ける子どもが 転院する際、心理社会的支援を行う職種である、 Child Life Specialist(CLS)、 Hospital Play Specialistの資 格を有する保育士、子ども療養支援士、米国の CLSが連携した事例を経験した。この事例における連携を後方視 的に振り返り、継続した支援のために必要な情報を整理し、子どもや家族への効果を考察した。【結果】心理社 会的支援を行う職種間で情報を共有した内容は、アセスメントに基づいた、「子どもの現状認識と使っている言 葉」「子どもの主体的な対処の方法」「医療者に対して・家族間で・子ども同士でのコミュニケーションの取り 方」「転院の目的や今後の見通しについての本人の認識」「家族構成とそれぞれの役割」「施設間の入院環境に 関する違い」であった。また、転院先から「入院オリエンテーション資料」「病棟や主に関わる人の写真」「ス タッフからの肯定的なメッセージ」の提供があった。これらの情報は、子どもに関わる多職種で共有され た。【考察】子どもの認識やコミュニケーション方法の情報は、子どもと医療者が継続的に共通の言語的・非言 語的表現を使うことにつながり、更に対処方法が尊重されることで、子どもの主体性が守られた。また、環境が 違う中でも迎えられている雰囲気を感じることで、子どもと家族は安心感を得て転院することができた。これら により転院する子どもの心理的負担を軽減することは、子どもが主体的に移植に向かう一助になると示唆され る。